日本の魅力は国民性

ケント・ギルバート氏が講演

西尾青年会議所公開事業

講演するケント・ギルバート氏

一般社団法人西尾青年会議所（平野謙吾理事長）の一般無料公開事業「日本覚醒～検証から学ぶ日本人の精神性～」が十八日、西尾商工会議所で開かれ、アメリカ・カリフォルニア州弁護士でタレントのケント・ギルバート氏が講演した。

世界視点で見た時に自分たちでは気づかない日本の良さを知り、日本人としての誇りを持ってもらおうと企画された。

ギルバート氏は「日本は二千六百年、ずっと同じ。日本は伝統と文化、長い歴史がある。三十九年間、日本に住んでいるが、日本のどこが好きかをよく聞かれる。日本の国民性が最大の魅力だという結論に達した。まじめ、誠実、正直、思いやり、義理人情、ていねい、おもてなしなど。こういったものが、日本の国民性だとぼくは理解している。少なくとも、これが理想。これが私の人生観にピッタリ合っている」と日本の魅力を力説した。

東日本大震災や熊本地震の被災地で、略奪や暴動が起こらなかったことについて、「被災者が、広い心を持っていることは、世界中を驚かせた」と強調。さらに「二〇一四年のワールドカップサッカーで、日本人サポーターが試合後にごみ拾いをしていたことが紹介された。日本の常識は世界の非常識になる。道徳や治安のレベルが高すぎる」と述べた。

問題点として「こうした長所が、外交ではあだになる。外交では性善説はやめた方がいい。この考えを持っている間は、やられる」と指摘。日本に感謝しない国々として、中国、韓国、北朝鮮の名前を挙げ、「特亜三国の非常識ぶりは儒教に由来する。儒教の国に謝ってはいけない。謝罪すると罪人としての地位が永久に確定する。罪人を許す概念はない」と国民性の相違点を紹介した。

日本人の良いところで悪い結果を招くこととして▽争い事を好まないため、最初から最後まで譲歩してしまう▽みんなが空気を読めるので、議論ではなく根回しや察し合いで物事が決まる▽組織の決定に無条件で従う。間違った方向に全員で突き進む場合がある▽変化や失敗を極端に恐れる。意思決定が遅く、タイムリーに行動できない、の四項目を指摘した。

「アメリカ人は、変わらないと良くならないと思っている。一か八かの国。ダメだったら元に戻せばいいという考え方。自分が失敗を恐れ、チキンと言われるのがいや」

と述

「日

はす

鎖国

界中

た。

なか

うと

あっ

では

た。

には、

れば

ど、

日本

解い